

氏名	庵 谷 和 夫		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 1649 号		
学位授与の日付	昭和61年3月31日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）		
学位論文題目	体表面電位図による左室肥大判定に関する研究 第1編 左室肥大判定に有用な誘導部位について 第2編 心臓超音波法との対比		
論文審査委員	教授 木村郁郎	教授 太田善介	教授 中山 沃

学位論文内容の要旨

体表面電位図が左室肥大診断に有用であるか否かを検討するために第1編では従来の心電図法との対比、第2編では心臓超音波法との対比を行った。

第1編では、左室肥大診断に有用な誘導部位は、第三肋間胸骨右側のS波高と左中腋窩腺第五肋間のR波高であった。この位置は従来の誘導部位と少し離れていた。この二誘導点を用いた診断基準を用いると従来の基準に比べ、診断率は良好であった。以上より電位図は多数の誘導部位を持つため、誘導部位に関する検討が可能であると考えられた。

第2編では、心臓超音波法より求めた心室中隔厚との対比では、電位図での中隔興奮時間は、中隔肥厚を示す高血圧症と肥大型心筋症をよく鑑別することができ、また左室後壁厚と電位図での背部の電位が良い相関を示した。以上より電位図は単極誘導を基として多誘導点より記録するので局所の所見をよく反映すると考えられた。

論文審査の結果の要旨

本研究は体表面電位図による左室肥大の判定について臨床的に研究したものであるが、従来十分確立されていなかった左室肥大判定に有用な誘導部位及び心臓超音波法との対比について検討し、第3肋間胸骨右側のS波高と、左中腋窩腺第5肋間のR波高が有用であり、又超音波による中隔肥厚とか左室後壁厚などについて電位図は部位的によく反映してその有用性を認め、価値ある業績として重要な知見であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。